そのだ裕史

そのだは市民のために

市民は大村のために

そのだ裕史事務所　〒856-0035 大村市武部町1177番地5

さ　再挑戦

私は、平成27年11月8日、市民の信託を受け、第22代大村市長に就任いたしました。マニフェストに掲げた全27項目中、子育て支援策として「市内全中学校で給食開始」、「市内全小・中学校にエアコン設置」、「子ども医療費助成事業の対象を中学校卒業までに拡充、未就学児の助成を現物給付方式へ変更、インフルエンザワクチン接種費用の助成対象を中学校卒業までに拡充」、福祉保健の充実として「特定健診の無償化」、都市インフラ整備として「長崎県内初の本場スマートインターチェンジの開通」、「国道34号大村―諫早間拡幅の新規事業化」、新たな財政確保策として「ボートレース大村のナイターレース参入」など、市民の皆さまにお約束しました項目の約9割を実行することができました。

市議会をはじめ市民や各種関係団体の皆さま、市職員のご理解とご協力に、心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。

実行してきた政策は実を結び、現在の大村市は、過去最高の人口増加数、過去最高の市税収入、過去最高の事業所数、過去最高の観光客数、過去最高の小・中学生スポーツ表彰数、過去最高のボートレース大村の売上と純利益など、これらの数字に裏打ちされた実績は、街の雰囲気と活性化につながっています。

しかし、1期4年間で実行できたこと、できなかったことがあります。できなかったことはもう一度、皆さまのお声を聴きながら課題を整理します。

私は、大村市の発展のために**再挑戦**します。

し　出発進行

「ワンワンワンダフルな大村市」を進めています。

大村湾（ワン）…大村湾沿岸自治体5市（長崎市・諫早市・大村市・佐世保市・西海市）5町（時津町・長与町・東彼杵町・川棚町・波佐見町）による大村湾を活かしたヒト・モノ・コトを動かすビジョン「大村湾地域経済圏構想」を提唱しています。自治体間による様々な連携・交流は、多くの副産物を得ることにつながります。それこそが、新しいカタチで地方創生を実行する全国のロールモデルになると確信します。

ナンバーワン…平成30年9月、ボートレース大村は「第2の創業」と位置付け、ナイターレースへ参入しました。競艇事業の売上と利益の拡大により、一般会計に寄与し、市民の福祉向上に資するという最大の使命を果たすため、ボートレース大村は、全国24場中、売上ナンバーワンを目指します。

オンリーワン…空港・新幹線・高速道路インターチェンジ、これら高速交通「三種の神器」が、全て大村市には存在（予定）します。国内最大級の高速交通網に恵まれた、高いポテンシャルを有する立地に恵まれている大村市、10月5日に開館を迎える収蔵能力202万冊を誇る全国初の複合型図書館となるミライon（長崎県立・大村市立一体型図書館及び大村市歴史資料館）、統合型リゾート（IR）の本県誘致、最先端技術を活用したミライ都市「スマートシティ・スーパーシティ」構想、V・ファーレン長崎とともにスポーツからはじまる地域創生「スポーツシューレ」構想など、オンリーワンの街づくりに挑戦する最大のチャンスです。

オール大村で「ワンワンワンダフルな大村市」へ

出発進行。

す　switch on スイッチオン

「ドラえもんシティ大村市」を目指します。

約440年前、日本で初めてキリシタン大名となった大村純忠、その名代として日本で初めてヨーロッパへの公式外交を果たした天正遣欧少年使節。

約150年前、明治維新で大活躍し、近代日本の礎を築いた多くの偉人。

昭和27年、日本で初めて競艇場を開設したボートレース大村。

昭和50年、世界で初めて海上空港を開業した長崎空港。

数々の「初めて」は、この地に宿るパイオニアとチャレンジ精神、「はじまりは大村から」なのです。

「どこでもドア」みたいに国内最大級の高速交通網のポテンシャルを有しながら、市内8地区を拠点とした昔ながらの地域コミュニティが活発で、自然が豊かで豊富な食材に恵まれた大村市。丁度いい都会田舎（トカイナカ）は、誰もが住み続けたいと思えるハイパーベッドタウンとして、まさに「ドラえもん」に描かれているような機能と街並みを備えています。

令和4年度の九州新幹線西九州ルート開業と同時に、大村市は市制施行80周年を迎えます。数字の「8」を横にしてみると「∞」（無限）となります。無限の可能性が広がる未来の大村市へ、「行きたい　働きたい　住み続けたい」、様々な種まきを、仕掛けを、企画を、政策を、事業を進めていかなければなりません。

県内13市の中で唯一人口増加を続ける街だからこそ、大村市のことだけではなく長崎県全体の発展のために、我々大村が長崎をけん引するトップランナーだという気概をもって挑み続けましょう。

ミライの街づくり「ドラえもんシティ大村市」へ

switch on／スイッチオン。

せ　選挙に行こう

平成27年11月 8 日	大村市長選挙	60.69%
平成28年 7 月10日	参議院議員選挙	57.03%
平成29年10月22日	衆議院議員選挙	57.22%
平成30年 2 月 4 日	長崎県知事選挙	44.86%
平成31年 4 月 7 日	長崎県議会議員選挙	51.53%
平成31年 4 月21日	大村市議会議員選挙	52.80%
令和元年 7 月21日	参議院議員選挙	45.20%

今から13年前、私は、ハンドマイクを片手に一人で街頭に立ち、こう叫びました。

『みんなが自分の街に関心をもつ。参加する。選挙に行きたくなる。そんな政治を、私はやりたい。そうだ、選挙に行こう。』

これこそが、私の政治活動の原点です。

あなたは、子どもから『ねぇ、なんで選挙に行かないの？』と問われたら、どう答えますか？

私達が、世の中を傍観し悲観的な言葉を発すれば、そんな姿を見た子どもは、大人の態度を真似するかもしれません。

あなたから子どもへ。そして、また次の世代へ。

大村の未来をつなぎ、伝えて欲しいのです。

街を創るのは、人と政策です。

その政策を提案するのは政治家ですが、選ぶのはあなたです。

未来の大村を、長崎を、日本を選び、みんなで創っていくために。

そうだ、**選挙に行こう。**

そ　そのだ裕史

昭和52年2月18日生まれの42歳です。

妻、長男、次男の4人家族です。

- 大村市立中央保育所
- 大村市立竹松小学校
- 大村市立郡中学校 野球部
- 長崎県立大村工業高等学校 電子工学科 ラグビー部
- 大村看護高等専修学校
- 学校法人福岡保健学院 福岡看護専門学校
- 大村市立病院（現 市立大村市民病院）
- 医療法人カメリア 大村共立病院
- 平成19年 大村市議会議員（1期目）
- 平成23年 大村市議会議員（2期目）
- 平成26年 大村市長選挙　落選
- 平成27年 大村市議会議員（3期目）
- 平成27年 大村市長（1期目）

重度の身体障がい者だった父と、花のお世話と草むしりが大好きな母のもとに生まれました。高校卒業後は、父のように様々な病気や障がいに苦しむ方々を、少しでも笑顔にしたいという想いで看護師になりました。みんなで街づくりに声をあげる、参加する、広げる、オール大村の街づくり

「オモシロキ　コトモナキ世ヲ　オモシロク」を掲げ、市議会議員を3期8年、現在市長を務めている**そのだ裕史**です。

問い合わせ
そのだ裕史 事務所
〒856-0035
大村市武部町1177番地5
〈tel〉0957-54-5981
〈fax〉0957-52-7300
〈e-mail〉info@sonoda-hiroshi.jp

そのだ裕史　検索

そのだ裕史後援会討議資料

これまでの4年間を報告します

経済／農林水産業／建設

「市内業者の経済活性化」

01 平成29年度から市独自の評価項目の追加や一般競争入札の参加資格を変更するなど、可能な限り分離分割発注を行い、地場企業の受注機会を確保しています。今後も、入札制度の見直しや市独自の支援策と最適な発注形態を進めていきます。

02 「おおむら地域連携ポイント通貨」の発行については、この4年間で民間各社によるキャッシュレスの動きが加速していることを受け、市内での普及状況や最適な流通システムを注視しています。今後も、市独自の地域経済活性化や循環、情報交換ツールとしても制度化することができないか検討を続けます。

03 「長崎空港のコンセッション方式による空港民営化並びに運用時間の24時間化」について、長崎県に要望活動を続けています。平成30年3月、「木場スマートインターチェンジ」が開通、「国道34号大村―諫早間拡幅」の新規事業化が決定しました。

「攻める農林水産業」

01 首都圏を中心に、大村特産品の販売会を継続的に開催しています。大村産ナマコをはじめとした農水産物のブランド化と販路拡大を進めてきました。今後も、長崎県食品加工センターや関係団体との連携により、農林水産業の6次化を進めていきます。

02 「大村の農業を新たに担う担い手づくり事業」を創設し、『就農するまで』『就農してから』『経営安定するまで』の3段階で、ホップ・ステップ・ジャンプできる支援策を進めています。「にこにこ畜産経営事業」「大村生まれ長崎和牛づくり事業」を中心に、優良畜産物の導入・生産を進めています。

バイオマスエネルギーの活用は実施に至りませんでした。

萱瀬ダムから坂口浄水場までの送水を利用した、公設公営の小水力発電を運用開始しました。

03 平成28年11月に「アセットマネジメント事業計画」を策定、新庁舎建設をはじめとする公共施設の再整備について、できる限り大村産木材の活用を進めていきます。

「地場産業の育成と連携」

01 農村レストランについては、建設運営コストや効果などを検討した結果、マニフェストを見直します。今後、建て替えを進めている新庁舎の飲食スペースにおいて、地元食材を使った市民向けレストランの設置ができないか検討していきます。

02 平成31年4月、新工業団地「第2大村ハイテクパーク」が完成、現在までに1社の企業誘致が決定、今後も、早期完売を目指し営業活動を進めます。

商工会議所や中小企業振興会議など、各種関係団体からの提言を受け、規制緩和や支援策を進めるとともに、行列のできる無料経営相談所「大村市産業支援センター（O-biz）」を開設、売上アップと企業間のマッチングが進み、様々な効果を生み出しています。

03 平成27年度から若手起業家の育成事業として「創業支援塾」を定期的に開催、これまでに延べ289名が受講、内62名が創業に結びついています。

医療／福祉／教育

「高齢者や障がい者を支える医療・福祉体制の構築」

01 平成31年4月、地域包括ケアシステムの拠点として旧浜屋ビル跡地に「プラットおおむら」を開設しました。

全国で初めてボートレース場内に就労支援施設を整備し、障がい者の就労の場の創出と工賃（就労収入）アップを進めました。

平成30年1月、長崎県内初となる「手話言語条例」を制定しました。

02 認知症支援として、地域で見守る「認知症サポーター」を延べ7,567人、内「認知症支援リーダー」を883人養成し、市民が主体となって地域課題の解決を図る「高齢者地域ネットワーク」を進めています。

平成31年4月から、特定健診の受診料を無料化しました。その他、各種検診に係る費用助成を拡充し、受診率アップを進めました。

03 平成28年4月から、総合運動公園の多目的広場・グラウンドゴルフ場を供用開始しました。令和2年4月から、テニスコート全14面中、6面を先行して供用開始する予定で整備を進めています。

平成30年4月に、陸上競技場と野球場をリニューアルオープンしました。

「子ども達を支える安全・安心な環境整備」

01 平成31年1月から、子ども医療費助成事業の対象を中学校卒業までに拡充、未就学児の助成を現物給付方式へ変更しました。

令和元年10月から、インフルエンザワクチン接種費用の助成対象を中学校卒業までに拡充しました。

「中学生までの医療費無料化」については、様々な保護者のお声を聴きながら、財源の確保や活用方法などを検討した結果、実施に至りませんでした。今後も、様々な子育て支援策の検討を続けていきます。

02 平成30年9月から全中学校で給食を開始しました。

03 令和元年中に、小・中学校の全普通教室と一部の特別教室にエアコン設置が完了、供用開始となります。

小・中学校のトイレ洋式化について、国の財源などを活用しながら、計画的に進めていきます。

肢体不自由児の安全・安心な教育環境の充実を図るため、玖島中学校区を拠点エリアと定め、大村小学校にエレベーターを設置します。

市内の通学路安全対策として、各校区に計画的な「ゾーン30」の整備拡大を進めました。

「郷土を愛し、命を守る、地域教育日本一」

01 学力向上対策として「オンライン学習コンテンツ」を導入、令和2年度から、小・中学校の学期制を、2学期制の課題を整理し成果を活かした「新たな3学期制」へ移行します。

02 平成29年度から、「特定不妊治療」に要する初回治療費を全額助成に拡充、病児保育の対象を小学校6年生までに拡充しました。

子どもの貧困対策として「学習支援事業」を開始、「学校でも家庭でもない第三の居場所」づくり拠点施設を開設、精神科医を全中学校に派遣する「メンタルヘルス・ケア　アドバイザー医派遣事業」を開始しました。

03 松原小学校・玖島中学校に、地域学習の充実を目的としたコミュニティスクールを導入しました。

平成30年度から、「松原小学校特別転入学制度」を導入しました。

財政／環境／企画

「組織改革、行政改革、財政改革」

01 平成29年度、政策立案と総合調整を担当する「企画政策部」、農・商・工の連携を強化し産業の一体的推進を図る「産業振興部」を新設、安全対策と危機管理と内部統制の推進を図るため「総務部」の担当部署を連携拡充、新庁舎整備に向けた「新庁舎整備室」を設置しました。

意識改革と不祥事について、公表基準の策定と事務処理ミス再発防止研修などを継続的に実施しています。

職員定数の適正化や働き方改革による将来的な部署のあり方、新庁舎整備を見据えた中で、現時点での事業本部制導入を見送ります。今後も、抜本的な組織再編や機構改革へ向けた検討を重ねていきます。

02 新たな行財政改革を進めるために、平成28年10月に「補助金等の在り方に関するガイドライン」を策定しました。

少子高齢化の進展による社会保障関係経費の増大、大型建設事業による公債費の増大、老朽化した公共施設の更新などに対応していくため、平成29年12月に「大村市財政運営基本方針」を策定しました。

様々な事業見直しとボートレース大村のナイターレース参入など、新たな財源確保を進めました。

03 未処分所有地の売却を進め、新たな財源確保を進めました。

「市役所を新築移転、バス交通の見直しと充実、公共施設の再整備計画」

01 新庁舎整備については、現在地裏のボート第5駐車場を建設地として基本設計業務を進めています。今後、国の「市町村役場機能緊急保全事業」による財源を活用しながら、計画的に進めていきます。

02 平成28年3月に「地域公共交通網形成計画」を策定、令和元年度中に「地域公共交通再編実施計画」を策定します。

市内交通空白地域において、平成29年7月から松原・福重地区ルート、令和元年7月から鈴田地区ルート・三浦地区ルートに、デマンドタクシー方式での実証運行を開始しました。

03 中地区公民館の建て替えについて、中地区ふれあい館と合築するとともに、建設場所を都市再生整備区域（市立大村市民病院　西側駐車場）に移転させることで、国の財源を活用し、令和元年度末の完成を目指し整備を進めています。

「市民会館の早期新築、大村湾を活かしたイベント企画、ボート場の多角的運営」

01 新たな市民会館建設について、時期、場所、手法、規模、財源などを含めて、今後も、市議会や市民、各種関係団体のお声を聴きながら検討していきます。

02 平成29年度から、大村湾沿岸5市5町が連携した様々な事業やシティプロモーションとして、自転車周遊イベント「大村湾ZEKKEIライド」を柱に、地域間連携による地方創生の取組を進めています。

03 平成30年9月から、ボートレース大村は「発祥地ナイター」としてナイターレースに参入しました。平成30年度の売上は約933億円、純利益は50億円超の過去最高を更新しました。